

# 自然と実り豊かな

# 下湯江

しもゆえ



**境界一番杭**  
江戸中期、境争いの跡、境を示す証として石杭を残した



島野江未加 (小6)



芝焼き

## 年中行事

月	行事	説明
1月	四方拝 (1日)	9時に青年館に集まり、集落の繁栄と各家の安全を祈念し美酒を交し互いに賀詞を交換し新年を祝う。
	寺年頭 (1日)	ご先祖様に感謝し焼香、宝蔵寺・法蔵寺に年頭の挨拶をして接待をいただく。
	お焚き上げ (10日)	古いお札等を琴平様に納め、神官によりお焚き上げをする。
	おこもり	毎月10日に部落の氏が交代制で集まり境内及び拝殿の清掃・月次祭・参拝者の接待を行う。
2月	芝焼き	虫の害を防ぐために1月下旬から2月上旬に3地区に分かれ農家組合で実施する。
4月	溝掃除	4月第1日曜日(初回)に水利組合主体で非農家も参加して実施する。(2回目3回目は水利組合として実施)
5月	早苗ぶり	田植えの慰労と豊作祈願、自治会で日を定めるが最近では機械の進展と耕作形態の変化で簡素となる。
6月	排水・江川草刈り	6月第4日曜日、生活環境保全・防災を目的として集落総出で実施する。
8月	施餓鬼会	飢饉に苦しむ生類や無縁の亡者に施し、その功德を先祖にふり向ける法要。宗派の別なく行われる。
10月	春日神社神事 (10日)	天兒屋根命・譽田別命・巖島姫命を御祭神として神事は琴平神社と共に。宵祭り・収穫の祝いと感謝をこめ神前にて祝詞。神事・神輿の入れ・祭囃子が巡行する。宵祭りは青年部の主催により祭り前夜、祭り太鼓の披露、模擬店・催しもの等子供達で賑わう。
年間	青年館公会堂清掃	青年館は4月～10月の5回にわたり班別輪番制で実施。また、高田公会堂は毎月念仏講が中心で実施している。

第一揚水場

岡田弥樹 (小6)

かんがい用水門  
大正12年竣工の用水門  
今も現役で大活躍



**八幡宮**  
高田の八幡宮は、高田から下湯江:春日・琴平神社の境内地に移されていたが昭和37年再び高田の地に移した。爾来、氏神と多くの人々に崇敬されている。例祭日は10月15日



下湯江の米どころ



変電所



市道君津駅前線にかかる江川橋



**造り酒屋 (原本家)**  
明治18年創業、鹿野山の伏流水で造る地酒端麗で喉越し爽やかな辛口酒。



アジサイ



**法蔵寺**  
宗派(縁起)  
浄土宗御本尊、阿弥陀如来  
慶長年間建立されたもので雄譽靈巖上人の開基。徳川將軍家・旗本赤松氏の位牌がまつられている。向拝は明治17年の建造。



鐘楼

除夜の鐘の音が新しい年を迎えます(平成16年建立)



**万霊供養塔・六地藏**  
江戸初期に建立された君津市で最も古い板碑型の供養塔と六地藏



**房総往還**  
江戸から安房を結ぶ江戸時代の道



**殿山居宅跡 (高田) 陣屋跡**  
旗本赤松八兵衛義利によって築かれたという。石高3000石の旗本



**御嶽・三笠・八海神社碑**  
赤松氏の頃といわれているが年月不詳。明治9年に再建され、現在地に移されたのは戦後で高田の有志で維持され崇敬されている



**宝蔵寺**  
宗派(縁起)  
真言宗豊山派・御本尊、不動明王・地藏菩薩高源上人の開基であるがその年月不詳。向拝に竜の彫刻あり。明治32年10月の作。境内に長寿観音像がある。これが末社の琴平神社である。

## 下湯江の偉人

氏名	偉業
地引伴蔵	(相撲の名行司) 明治初期の人で木村庄之助を名乗り相撲界の1世を風びした。明治19年11月没す。
福原つね	(かいこ先生) まゆの糸をつむぐだけでなく、かいこの育成から行程の指導普及に専念した。
原 徳治	(実業家) 13代原四郎治の長男、アメリカに遊学後酒醸造を営み、木更津に昭和タケノから数々の会社を設立し昭和21年自社は原本家と改め、日本酒を醸造する。また、県会議員として活躍される。
田中夢阿	(俳人) 寛政・文化・文政(1700年後半～1800年前半)に活躍した俳諧人。生家は下湯江の名主田中家の出で、その句碑が釜神公会堂にある。天保3年の建立。



六地藏



長寿観音像

## たばこ栽培

昭和25年、8名で耕作組合を設立。一時は設備を拡大したが次第に減少し、20年間続けられた葉タバコ栽培に終止符が打たれた。



琴平神社祭り



親子で賑わう宵祭



春日神社・琴平神社

**御祭神(由緒)**  
御祭神・天兒屋根命・譽田別命・巖島姫命、創建は明治元年(1764)明治初期、近郷との水争いの結果勝訴・氏子一同その恩顧をかしこみ氏神の当社地に神社を造営した。これが末社の琴平神社である。

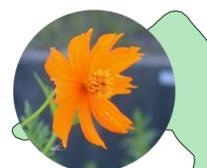
# 水と緑と歴史の里 郡



春日神社 還座祭



春日神社 天延2年(974)創建



キバナコスモス (7~8月)



正福寺 晋山式稚児行列



稲村山 正福寺



郡ダム



郡ダム



遠山綾香 (小6)



カワセミ



てんとう虫



フクロウ



谷羽純 (小6)



サフランモドキ (6~9月)



古絵図 天正19年 (1592年)



河津桜 (2~3月)



ヤマブドウの実 (7~8月)



南養院の曼珠沙華



地福寺 雨乞い地蔵 三幣十郎兵衛政次墓



南養院の大イチョウ

## 郡地区の偉人

**義民 中山新左衛門**  
享保時代、役人の過大な取り立てに苦しむ百姓達のため、名主として玉虫公に直訴した。村人の窮状を救ったが、人々の助命嘆願もむなしく処刑された。

**教育者 三幣希亮**  
安永元年生まれ。東都に遊学、日夜研學に余念なく同輩の尊敬も得る程。郷里に帰り、名声を求めず、ひたすら子弟の教育に専念するその人柄は皆に慕われた。

**教育者 萩野鶴汀**  
東都に遊学後、家塾で子弟の教育にあたる。明治維新となり、欧米の文物の流入により日本の美風が次第に破壊されていくことを嘆き然として逝去。享年33歳。

## 郡地区の年中行事

1月 1日	四方拝	春日神社
1月 5日	寺年頭	正福寺
1月	総会	協同館
1月 末日	芝焼き	地区内
2月	節分会	春日神社
3月	春彼岸会	正福寺
3月	馬頭観音供養	馬頭観音
4月	自治会引継ぎ	協同館
4月	代掻日祭り	春日神社
5月	早苗振祭り	春日神社
8月11日	大施餓鬼会	正福寺
10月	秋の礼大祭	春日神社
12月	勘定	協同館

# 三舟山の麓 緑あふれる静かな郷

## 小香

**サガミトリゲモ**  
地蔵菩薩 (1689年)  
廻国塔 (1780年)  
百万遍供養塔 (1789年)

**三舟山駐車場**  
北側にアメニティロードの入口がある。  
春にはサクラ・スミレ、秋には紅葉が楽しめる。

**ホタル・サワガニ**がいるよ。  
アメニティロードにつながっている。

**トウキョウサンショウウオ**  
道路の側溝にもいるよ。

**キジ 川名もも (小4)**

**川上藤乃 (小6)**

**コマツヨイグサ (7~8月)**

**オオマツヨイグサ (7~8月)**

**小香八幡神社**  
八幡神社祭礼 子どもみこし

**ウシガエル**がたくさんいる堰

**カブトムシ**

**リス**

**作業場**  
精米機がある共同の作業場  
昭和40年代はミカンの栽培が盛んで、出荷していた。  
ミカンの選果機も残っている。

**小香公会堂**

小香の年中行事

1月 1日	年始の禮
1月	総会 新年会
2月 15日	春祈禱 郷々張り
3月	春作業
7月 1日	夏祈禱 浅間祭 郷々張り
7月 18日	観音様祭礼
7月末	夏作業
10月 13日	八幡神社秋大祭
11月 3日	秋小祭



# 歩いて見よう

## 貞元親王墓・三舟山

## 郡ダム・房総往還



- コース案内
- A 貞元ミセン0.6km 貞元親王1.9km 河津桜1.4km 郡ダム1.7km 三舟山入口駐車場1.4km (上り坂) 展望台0.7km (下り坂) 駐車場2.4km 貞元ミセン
  - B 貞元ミセン1.1km 房総往還3.0km 三舟山(展望台)
- 構想 郡ダム一周3.5km \*Bは道路未整備



**三舟山** - 歴史的にも由緒ある山 -  
室町時代の永禄10年(1567)に、北条氏と里見氏がここで戦(三舟山合戦)をし、里見氏が大勝したという史実があります。  
三舟山合戦については、戦記・軍記類まちまちで戦闘の様子は不明ですが、周辺にはこの合戦にまつわる話や関係した場所(合戦に際してつけられたという地名「上湯江の字陣場、字陣所」などが伝えられています。



### 三舟山の彩り

**郡ダム** - 1972年完成 -

- 工業用水用
- アース式ダム
- 堤高 38.2m
- 堤長 720.6m
- 有効貯水量 3,880,000m<sup>3</sup> (南側から撮影)

**展望台**

**三舟山陣跡** - 継承遺産 -

**スミレ (3~5月)**

**遊歩道**

**ヤマツツジ (4~5月)**

**ヒグラシ**

上湯江出身の偉人	
平田善次郎	安政2年生まれ。早くから地域の産業発展に貢献し、特に三舟台地に、さつまいもの導入と普及をさせた功績は大きく、貞元農協組合は氏の遺徳を伝えるため、石碑を同敷地内に建立した。
栢山 毅	明治元年生まれの教育者。18歳の時、福沢諭吉を慕って慶応義塾で学び、明治26年上湯江に私塾を開いて教育に専念した。昭和12年門下が三舟山台地にある栢山家の墓所に石碑を建立した。

# 三舟台地と緑の田んぼに囲まれた 上湯江



**台中**

- 平田善次郎顕彰碑 (左記説明参照)
- 栢山毅顕彰碑 (左記説明参照)

**宮田**

- 富士講碑 (大宮神社境内)
- 御嶽講碑 (大宮神社境内)
- 出羽三山供養塔 (大宮神社入口)
- 馬頭観音 (徳常寺境内)
- 薬師様 (下公会堂内)
- 大宮神社
- 下公会堂
- 徳常寺
- 川崎中 (内峯)
- 青木敏晴
- 石川十四一 (浅右工門)
- 篠田恒雄 (仁右衛門)
- 村松一重
- 永嶋博文 (半兵衛)
- 石川輝久 (九郎兵衛)
- 三角
- 安藤文雄
- 久保田清
- 石川博
- 島崎和益
- 矢治
- 消防第六分団 機庫

**内山**

- 宮崎増征 (元工門)
- 玉川剛 (重郎左衛門)
- 鈴木秀実 (五左衛門)
- 宮崎比呂志 (元工門新宅)
- 石井清 (源次郎)
- 平野努 (半平)
- 立石政良 (立石建設)
- 石井利明 (唐鎌)
- 宮田公会堂
- 篠田幸男 (たがどん)
- 玉川清之 (工場の店)
- 鳴野仁 (五反目家)
- 立石房雄
- 村越光訓
- 津野彦馬
- エリカ美容室
- 市場
- 石神台
- 市場ストア
- 市場
- 君津共同火力社宅
- 日鉄運輸社宅 若宮
- 貞福寺
- 内山
- 萬霊供養塔
- 貞元コミュニティセンター
- 三船屋
- 小林一臣 (半左衛門)
- 小林昌司 (金兵衛)
- 小林豊 (庄左衛門)
- 的場
- 寺後
- 貞元小学校

**原田**

- 永塚和男 (治郎右衛門)
- 平田拓資 (三右工門)
- 山下秀弥 (弥五左工門)
- 永塚勝幸
- 治井誠一
- 千葉信郎 (長平)
- 平野源治 (源内)
- 津野光徳 (吉平)
- 長塚孝夫 (長平)
- 長塚正己
- 平野隆市 (由平)
- 小林順一 (喜左工門)
- 小林正視 (新右衛門)
- 高野裕 (五反目)
- 篠田富男 (嘉左工門)
- 津野昭
- 高橋悦弘
- 鈴木芳昭 (四郎兵衛)
- 栢山豊 (理右衛門)
- 石川和子
- 小堰
- 鈴木秀典 (せき)
- 玉川喜一 (向山)
- 向山
- 上湯江自治会館
- 貞福寺
- 原田
- 市道上湯江原田1号線
- 市道4号幹線
- 市道上湯江内峯線
- 市道6号幹線
- 市道上湯江線
- 至富津市・下湯江
- 至釜神
- 至貞元
- 江川
- 上湯江保育園
- 君津中央公民館貞元分館 (貞元小学校敷地内)
- 忠魂碑 (貞元小学校敷地内)
- 新田
- 上湯江
- 江川
- 至小香
- 角田谷
- 梅田川
- 大堰
- 向山
- 二反田
- 法木作
- 源氏ほたる
- サンショウウオ
- 梅田川上流の自然
- カリガネソウ(9月)
- ツリフネソウ(8~9月)
- 永嶋和輝 (小6)
- 基盤整備された上湯江穀倉地帯
- 至富津市・下湯江
- 千葉医療福祉専門学校
- 江川堤防に咲く彼岸花
- 上湯江紅團場整備記念碑

# 古文書が今に伝える 中富

## 小糸川・お日待ち・くらし



至中野



### 中富の年中行事

1月1日	石上神社初詣
1月	新年会
	お日待ち
	古峯神社代参くじ引き
1(2)月	芝焼き
2月11日	転読大般若会
3月	総会
	馬頭観世音菩薩供養
3(4)月	用水堰止め・水路掃除
5月	早苗ぶり
6月	古峯神社代参
6(7)月	土手の草刈り
7月	宮雑ぎ
8月	いやさか君津踊り
8月16日	山門大施食会
10月9日	石神社大祭
10月10日	馬頭観世音菩薩供養
11(12)月	お日待ち
12月9日	献穀祭
満月	百万講

### くらしを支えた副業

- 飴づくり40軒  
古くは1843年の商人規定書に記されている(古文書)昭和16年頃まで造っていた。貞元地域誌に「飴商い小話」が二話掲載されている。
- 養蚕  
明治の中ごろ始まったと伝えられ昭和15年頃まで40軒近くが飼育していた。現在の公会堂は雅蚕飼育所を改装した。
- 甘藷(さつまいも)  
大正時代から多くの畑で栽培、近くに出荷。昭和30年から40年代半頃まで約40軒で生産組合を組織、東京市場に出荷していた。



400年前は釜神(上の①)付近から江川に合流。300年前は上絵図の形態。宝永元年(1704)現在の形態。延宝2年(1674)貞元村と中富村の境界と定められた河原山1.2km(上の②赤い点)その一部に新しい道が通る。昔の河原、川跡等を小字で示しているのも興味深い。

市道君津駅前線工事前の風景  
左端駅前 中央河原山 右端君津市役所用地測量(右端道路中心高さの丁張)



中 大草平内廟(日の宮様) 富西寺内  
左 大乗妙典塔(禅達大和尚)  
右 小糸川流路改修三百年記念碑  
煮ナマス 七味唐辛子  
ケンチン汁(夜) スマシ汁(朝)



### 江川のカメについて

江川はクサガメとイシガメ(子供をゼニガメともいう)の2種類が多く生息。クサガメの甲羅は中央と左右の3本の隆起、後側は滑らか、首に黄色の模様があるのが特徴的です。イシガメの甲羅は中央に1本の隆起、後側はギザギザです。江川では春から夏は水位(灌漑期)が高いので広く分布し、秋から冬は、土手が削られてできた横穴で越冬しますので偏って分布します。江川での伝統的な用水の利用方法がカメの生活とよく適合しているものと思われる。



# 貞元親王伝説と れんげの里 貞元



貞元親王墓



れんげ草 (4~6月)



神将寺

薬師堂



満隆寺



八幡神社



お神輿



石井魁斗 (小6)



どんど焼き



さくら



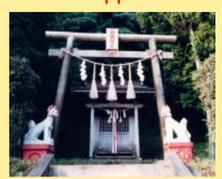
アジサイ



江川にコイ稚魚の放流



下の堂



三保の稲荷様



堀井戸



清水の不動様

佐久間玲奈 (小1)



釜神公民館  
川原堂～地蔵堂～公会堂～公民館と時代とともに呼名も変わった。昔の釜神は川原であった。



鳥沢貴夫 (小6)

貞元の年中行事

1月	新年会・べ張り・初午
1(2)月	どんど焼き
2月	芝焼き
3月	用水路掃除
4月	八幡神社春祭り
5月	早苗ぶり
6(7)月	江川土手の草刈り
7月	排水路掃除
10月	宮薙ぎ・のぼり立て
10月15日	八幡神社祭礼
12月	集会所清掃・忘年会
定例会議	毎月1回



旧貞元村役場会議室

## 貞元出身の有名入

三沢得太郎 (1857~1935)	祖先は相馬藩の藩士。明治維新で藩が解体したので、得太郎の父は、貞元に来て三沢家を継いだ。その流れをくむ得太郎は剣道修業にはげみ『貞元親王墓』の隣地に道場を開設し、多くの人々に剣道を教えた。富津市や木更津からの入門者も多かった。
鈴木重昌 (1810~1880)	両親が江戸で働いていたので重昌は、江戸で生まれた。当時江戸で流行中の『和算』に興味をもち長谷川善右衛門の塾に入った。25才のとき貞元に帰り、多くの人たちに『和算』を教えた。『和算』は、明治らしい西洋数学に代られ、今日では行われていない。
鮎川源右衛門 (1801~1869)	幼い時から、満隆寺の僧について漢字を学び、のち江戸に出て修業を重ねた。やがて貞元に帰り名主や房総二州民部取締役をつとめ、そのかわら多くの人たちに学問を教えた。

# ともに考えよう地域整備計画

小糸川南岸に広がる  
水田農業地帯

## ふるさと 八幡

地区面積 約967ha 人口 3,518人 世帯数 1252戸  
目標年次 平成27年度 平成14年4月1日現在

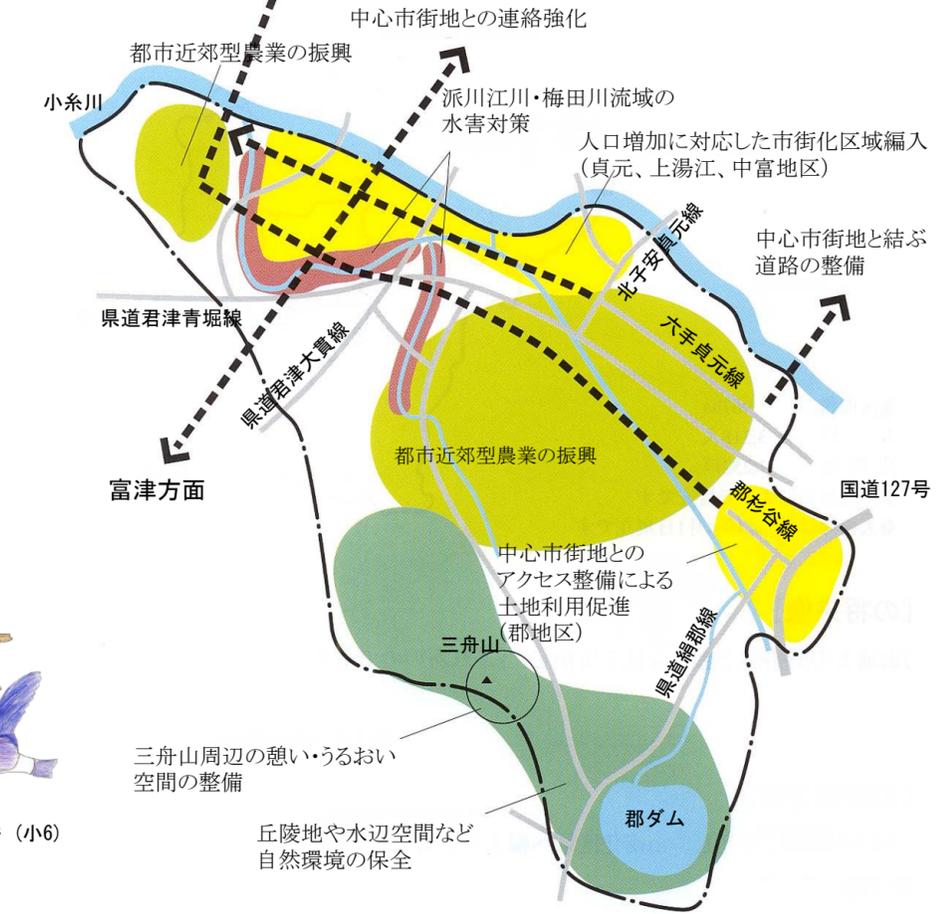
### 【地区の将来像】

市街地との隣接性と豊かな緑を生かし、「ふれあいのできる地区」を目指します。

### 【地区の整備方針】

- ① 人口の増加に対応し、市街化区域へ編入し、新たな土地利用を図ります。
- ② 三舟山の丘陵地に自然公園的レクリエーションエリアの形成を図ります。
- ③ 農業環境を整備し、都市近郊型農業を振興します。

### 貞元地区土地利用構想図



安永風香(小6)



鈴木菜摘(小6)

凡	例
都市的土地利用増進地区	河川、水辺
優良農地、農業振興ゾーン	水害対策地区
自然環境保全ゾーン	幹線道路軸及び整備路線

### 【その他特記事項】

- ① 小糸川・江川の水辺空間や三舟山・郡ダムなどの自然を活用した、遊歩道等の整備。
  - ② 新たな作物の導入や付加価値の高い農産物の産出、優良な種子の生産を支援。
- ※ この計画は、平成14年6月君津市発行の君津市整備計画から抜粋しました。



### 【八幡御霊様の言い伝え】

年寄りから、八幡の民は忘れてはならないと聞かされた話。昔、日照りが続いて、米が殆んど収穫できず、村人が年貢を納められず困っていたところ、「いいずか」「えんどう」「かわさき」の三名が、殿様に直訴をして年貢を減免して貰いました。そのお蔭で、村人はどうにか生き延びることが出来たのです。その御恩を忘れてはならないと、三人をお祀りしてあると言い伝えられています。

八幡水田風景(秋) 八幡水田風景(春) 八幡水田風景(夏) 八幡水田風景(冬)

縄文・弥生時代を今に伝える里

# 新御堂



加姓夕夏(小6)



曹洞宗最勝福寺  
(1555里見義弘)



六地藏



基塔 中央 旗本赤松氏置  
右 旗本赤松氏照



庚申塔

## 札所

- 観音様  
・新上総国19番  
・小糸作46番  
薬師如来  
・新上総国8番  
・小糸作10番



高台より見た新御堂の集落



スイレン (7~8月)



元秋葉台遺跡  
(横穴古墳)

村中正夫

下荘台遺跡



馬頭観音

草競馬跡  
(大正~昭和初頭)



新御堂生活センター  
地域住民の行事会合の場所



オニユリ  
(7~8月)

上荘台塚群



杉谷公会堂  
地域住民により建設され、交流の場となっている。  
百万遍等お行事は、こちらの公会堂で実施される。



## 荘台出土品

縄文時代から古墳時代の遺跡で管玉、白玉、小白玉は古墳から出土した遺物です。



## 祭祀遺物

土師、古墳時代で20以上の集落からなるところで神祀をした遺物である。



立正大学齊藤教授による遺跡調査  
(昭和53年)



罎(かん)



発火石  
火をおこすための石



山ユリ (7~8月)



ヤブラン (7~8月)



甑(こしき)  
(米・いもをふかす時に使用)  
弥生遺跡(久留里城址資料館に展示)  
日本で数点の貴重な出土品

新御堂の年中行事	
1月	新年会
2月	芝焼き、総会
5月	さなぶり
7(8)月	草刈
10月	祭り
11月	伊勢講

# 杉谷



杉谷集落  
黄金色の田園風景、山の裾野が杉谷集落



## 杉谷橋

河川改修により「すぎやつはし」を建設  
両岸に遊歩道があり、上流部には桜並木もある。



サンジャク パーペナ  
(7~9月)



ヤブカンゾウ (7~8月)



## 自噴の井戸

水量は少なくなったが、  
良質の水が今も自噴している。

## 【杉谷地区の年中行事】

行事	説明	明
1月 四方拜 (1月1日)	郡・郡の社・杉谷・新御堂の有志が、午前8時頃に春日神社に集合し、参拝の後、互いに賀詞を交換し、酒を酌み交わす	
記念写真撮影 (1月1日)	午前10時、杉谷在住の住民が一堂に会し、賀詞を交換し、記念写真を撮影する。	
初顔合わせ (1月1日)	記念写真終了後、賀詞交換と酒を酌み交わし、1年の無病息災を祈願する。	
氏神講 (1月中旬)	毎年、正月の18日前後の日曜日の朝、公会堂に戸主が集まり、祈禱をあげる。	
芝焼き	虫の害を防ぐため、全戸により枯れ草を焼く恒例行事。1月下旬から2月上旬に実施される。	
2月 寒参り (2月1日)	霜が解けないうちから、村中のお墓参りをする。	
百万遍 (2月11日)	以前は2月10日であったが、公会堂に子供達やお年寄りを中心に集まり、大きな数珠を回しながら「南無阿弥陀仏」と100回唱える。その後、持ち寄ったごちそうを食べ、親睦を深める。	
4月 溝払い	4月の第一日曜日、地区全員が集まり、水路掃除を行う。農業をやらない住民も参加して行う。	
5月 さなぶり	田植えが終わると農家は3日間仕事を休む。田植えを手伝ってくれた人の所へ手間賃を持ってお礼に行く。	
7月 夏勘定	7月20日前後の日曜日、前半の会計・勘定を行う。後半の事業計画の検討を行う。	
10月 秋祭り	10月の第二日曜日、春日神社に集う有志を中心に祭礼を行う。2日前に幟立てを行い、祭り翌朝撤収を行う。	
12月 暮勘定	年後半の勘定を行う。翌年の行事計画も作成する。	

## ☆【掘り抜き井戸】

杉谷の入り口付近に自噴井戸がある。上総掘りで掘ったと言われ水量は当時よりかなり少なくなったが、良質の水が現在も自噴している。



渡邊智樹(小6)